

幸せになるための教育を実現する会議に関するまとめ

I 目的

子どもたちが、現代社会を生き抜く力を養い、自分の幸せとは何かを自ら考え、実現する力を身につけるために必要な要素を明確化し、教育現場で実現可能な取り組みを提言すること

II 構成員

5名(PTA 会長経験者2名、子育て中の者2名、学識経験者1名)

III 取組

令和4年度 会議開催8回、教職員アンケートの実施、学校参観

※第1回会議を5月12日に開催、第6回会議(9月22日)で半田市長に提言

●提言内容

【必要な要素】

次の能力が必要である。判断基準となるものが「幸せ」である。

- ・自分自身の判断基準で物事を見極め、納得した答えを導き出し、行動していく能力
- ・多様性を尊重し、個人個人が互いに納得できる答えを導き出す能力

【教育現場で実現可能な取り組み】

1. 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくこと
2. 「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと
3. 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めること

●提言を受けての動き

【市長】

総合教育会議(9月28日開催)において、提言に基づく教育の実践を協議し、10月21日に教育委員会へ正式に依頼した。

【教育委員会】

提言に基づき、令和5年度からの取組として、9つの具体的な方策を策定し、各学校長に周知。

9方策…①教育目標に位置付け、②強化週間を設定、③実践事例(板書データ)の蓄積、④小学校教科担任制の推進、⑤中学校部活動の地域移行、⑥研修の充実、⑦環境整備、⑧評価の実施、⑨情宣、教職員対話の実施

【市長】

令和5年度の予算化、④教科担任の配置(4人)、⑥工藤勇一氏の講演会、⑦特別教室へのエアコン設置、学校徴収金管理システム導入、学校地域協働支援員の配置(1人)

令和5年度 会議開催5回、教育講演会の聴講、学校参観等

※第9回会議(令和5年4月17日)では、幸せになるための教育の実現に向けての意見交換を

教育委員と実施した。幸せになるための教育を実現するための方向性に違いがないことを確認した。

●提言を受けての動き

【教育委員会】

9方策を推進。②10月1日からの1週間を児童生徒が決めた名称「半田ハッピーウイーク」とし、幸せに関連した授業の学校公開などを実施。③約240事例の蓄積。

【市長】

令和6年度の予算化、④教科担任の配置(2人)、⑤中学校部活動の地域移行、⑥石井英真氏の講演会、⑦学校地域協働支援員の配置(2人)

【市長・教育委員会】

3月6日の総合教育会議で、「幸せ」を教育の目的とする教育大綱の改訂と、重点的に講ずべき施策が予算に反映するために総合教育会議を5月定期開催することを決定した。

令和6年度 会議4回、教育講演会の聴講、学校参観、教育委員会自主研修会参加等

●提言を受けての動き

【市長・教育委員会】

5月27日に総合教育会議を開催し、幸せになるための教育の推進について協議した。

【教育委員会】

9方策を推進。

【市長】

令和7年度の予算化、④教科担任の配置(2人)、⑥講演会、⑦体育館へのエアコンの設置、学校地域協働支援員の配置(2人)

IV 成果(提言の推進)

1. 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくこと

⇒「幸せになるための教育」の実現のために、教育大綱を改正し、教育の目的が「幸せになること」を明記。総合教育会議で「幸せになるための教育」を推進していくことの合意し、毎年、進捗確認することとした。教育委員会では「幸せ」を教育重点目標に明記し、各学校で「幸せになるための教育」を考えて実現する取組を進めた。

2. 「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと

⇒「ハッピーウイーク」における公開授業を学校ごとで考えて実施すること、教員が過去事例を参考とできるように実践事例(板書データ等)を蓄積することで、各学校、各教員が主体的、自由に考えることを進めた。

3. 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めること

⇒教科担任・学校地域協働支援員の配置、特別教室・体育館へのエアコン設置、中学校部活動の地域移行などを実施することで教員の負担軽減、環境整備を実施。